



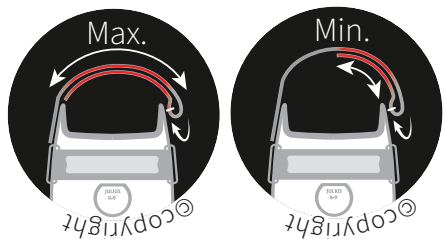
# 注意!

愛犬を繋いだまま放置しないでください。

## ハーネスの正しいサイズの測り方とハーネスの設定

IDC® パワーハーネスとK9® 犬用ハーネス

注意：2016年9月からJULIUS-K9犬用ハーネス販売の全ホームページには図面付きの以下の情報を表示しなければなりません。製品説明はビデオ付きですので、そのビデオをウェブショップにおいても表示しなければなりません。それにより注文ミスや不正使用のために起こりえる被害を最低に減らすことができます。



ベルク口開閉式すなわちベルク口設定の胸ベルトはJulius-K9®の開発(1997年)によるものです。胸ベルト装着において犬の胸のほうからバックルを通して付けて締めなければなりません。ハーネスの設定範囲は最小から最大まであり、ハーネスは犬の体重の数倍の力にも対応します。

### サイズの正しい測り方

それぞれの犬に合う適切なサイズのハーネスを選ぶためにサイズの正しい測り方は欠かせません。サイズ0・1・2・3と4の場合は、愛犬の胴回りを両前脚の後ろ(下の部位)を4本の指の距離で、BABY1とBABY2サイズの場合は2本の指の距離で測りましょう。

### 犬用ハーネスの付け方

ハーネスを装着するとき、胸ベルトと胸の下に位置することになるストラップの正しい設定に特にご注意ください。ストラップが緩い場合、犬はストラップの後ろへ抜けてしまう可能性もあります。しかし、胸にきつ過ぎる設定されたハーネスは犬にはとても不快です。胸ベルトがきつく設定されるとバックルが脇の下当たるので、皮膚を傷めることになります。



犬の背中に装着されたハーネスの下に指を差し入れることができるのであれば、それは胸下のストラップの緩さはちょうど適切であるということです。



### ハンドルの安全な固定

IDC® パワーハーネスのハンドルには4つの設定が可能です。真ん中のフックだけ又はハンドルだけを固定するか、フックとハンドルを固定するか、もしくはどれも固定しないかです。MINIとMINI-MINIサイズの場合は、ハンドルはベルク口で固定し、それに被せることができます。それにより何かに引っかかる可能性を最低に減少することができます。これは特に自由気ままに走る犬の場合には大切です。



### 犬はハーネスから後ろへ抜けてしまう場合はどうすればいいでしょう。

犬が後ろに動き出し、ハーネスを抜き出ようとしたり、または頭を首輪から抜き出そうとするとき、リードをかたく閉めないように注意してください。

ハーネスの適切なサイズ選択は安全で快適な使用には欠かせないことです。



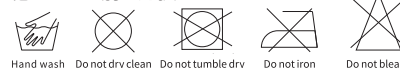
**注意!** 間違ったサイズ選択、ハーネスの設定やリード使用の結果、愛犬はハーネスあるいは首輪から抜けてしまうことが考えられます。ハーネスが小さすぎる場合は、胸ベルトは犬の首を絞めることとなります。正しくないサイズは犬の怪我の原因となります。胸ベルトのプレッシャーは胸全体ではなく、愛犬の首にかかってしまう可能性があります。



ハーネスのサイズが最適であるとき、犬の肩や脚は楽に動くことができます。ハーネスが大きすぎる場合、犬が前脚で胸ベルトから踏み出してしまうことがあります。Julius-K9は不適切なサイズ及びハーネス設定から起きる被害に関して一切責任を取りません。

### クリーニングと保管

洗濯機で洗わないで下さい。  
40度未満の温度で手洗いでください。  
他のものと別に選択してください。



乾かして、紫外線の当たらないところに保管してください。

### 欧州特許登録番号:

U09 00241, U10 00002, 001632258-0001  
402010004256-0003, 402010005060-0006,  
402010005060-0007, 402010005060-0008  
402010005060-0012, 012040382  
402010005060-0012